

心豊かでたくましい児童生徒を育む

小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol.24

連携型小中一貫教育の成果

このたび、施設一体型小中一貫教育学校(三戸小学校・三戸中学校)が開校しますが、これまでの4年間は連携型で一貫教育を行ってきました。今回はその成果の中から不登校の減少についてお伝えします。

この数十年間、全国で多く見られる不登校に関する対策とえば「不登校になった児童生徒をいかにケアしていくか」というものでした。例えば、学校へ通えなくなった児童生徒を受け入れる適応指導教室※1を設置して、ケアにあたる人材を配置したり、スクールカウンセラーの配置や派遣により、児童生徒本人や保護者、教職員の相談体制を

整備したりするなどです。

しかし、これらの不登校である児童生徒のケアと同時に、新たな不登校を生まないための対策(予防)をしなければ、不登校を大きく減らすことはできません。

このことは、生徒指導を研究している文部科学省の国立教育政策研究所の調査でも明らかになっています。

※1適応指導教室とは

主として不登校の児童や生徒に対する指導を行うために、教育委員会が学校以外の場所、または学校の余裕教室等を利用して校内に設置している。在籍校と連携しながら、個別のカウンセリング、教科指導等を行うもので、単に相談を行うだけの施設は含まれない。

一定の要件を満たせば、指導を受けた日数を出席扱いにできる。

三戸町の不登校対策(ケア)

不登校である中学生のために、適応指導教室を三戸地方教育研究所と三戸中学校に設置し、町独自の支援員を配置しています。このことにより、不登校から適応指導教室へ、適応指導教室から普通教室へ戻ることができる生徒が増えています。

新たな不登校を生まないための対策

◆生活リズムの観点

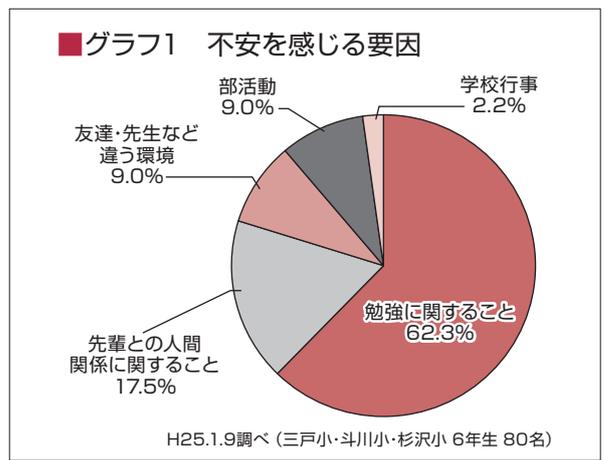
脳科学の進歩とともに、学童期以降における「不登校状態や引きこもり」は「こころの問題」という側面だけでなく、睡眠の質・量・リズムの障害による「脳機能低下」という医学的な問題も、その要因の一つとなることが明らかになっています。

生活リズムの乱れによる不登校を未然に防ぐため、小中学生へ「早寝早起き朝ごはん」に関する講話を行ったり、専門の小児科医による生

◆学習面の観点

小学6年生を対象に中学校生活で不安なことをアンケートで聞き取ったところ「新しい学習内容や定期テストなどの勉強に関すること」が大きな割合を占めました。(グラフ1参照)

この不安解消のために、町では「勉強のやり方」や「学習計画の立て方」をアドバイザーする学習コーチ事業を行っています。



活リズムの診断・アドバイスをしたりしています。

講師を務めるのは東京大学大学院（教育学研究科）修士課程に在籍し、株式会社プラスティー教育研究所の代表取締役を務める清水章弘さんです。

3月21日には、8年生（中学2年生）を対象としたセミナーを開催しました。

この学年は、3年前にスタートした中学校入学前ガイダンスを初めて受講し、清水さんから勉強のやり方を学んだことのある生徒たちです。

基本的な勉強のやり方をおさらいしたうえで、記憶の方法など、具体的に効率的な勉強のやり方を学びました。

◆対策による効果

学習面の改善が不登校の減少に係しているというのは意外に感じるかもしれません、「中1不登校調査」（国立教育政策研究所）によると、中学1年生で不登校になった生徒の一部は、学習面で悩みを抱えていたことが分かっています。

欠席が多かったため、学力が低くなったことも考えられますが、学力が低いことで不登校になる場合もあ

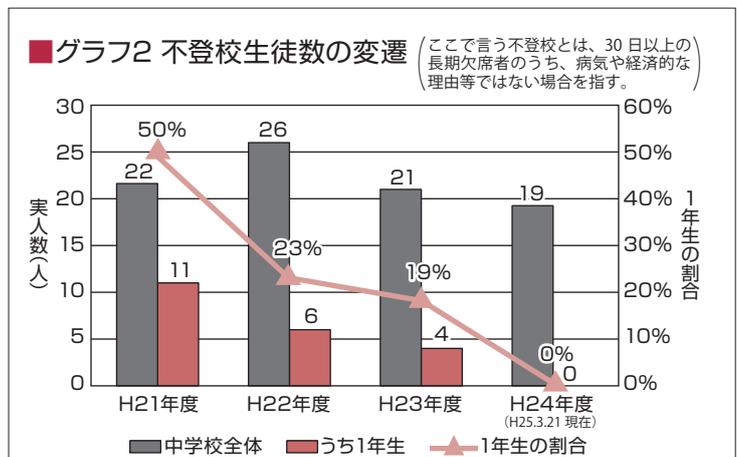
ると考えられています。例えば、「非行・遊び」型と呼ばれる不登校は学力不足が背景にある可能性が高いことが、調査結果からうかがえます。

同じように、生活リズムの改善が不登校の減少に関係しているというのは意外に感じるかもしれませんが、現代の中学生の身の回りは、ゲーム・ケータイ・インターネットなどが、親世代の時にはなかったメディアという誘惑であふれています。

さらには、部活動だけでなく習い事や学習塾などをこなした上で、宿題やテスト勉強をこなさなくてはならない生徒もいます。

この場合に一番削られがちなのが「睡眠時間」です。町独自の睡眠調査でも、中学生は小学校時代と比べて著しく睡眠時間が減少しています。前述の学習コーチ事業は、部活やその他の活動も頑張りながら、効率よく勉強する力を身につけることも狙っています。

学校での指導のほかに、町で取り組んでいるこれらの対策の成果として、中学校入学後に新しく不登校に陥る生徒が減少していると思われる（グラフ2参照）



町が行っているのは、学校で積み上げられる指導内容をしっかりと受け止める土台づくりを支援する取り組みです。

小中一貫教育という新たな手段で子どもたちを健やかに育てていくためには、家庭や地域と連携し、しっかりと土台づくりを行っていくことが重要であり、これらの取り組みは今後も継続していきます。

図書の紹介

清水さんの5冊目となる著書『中学生からの勉強のやり方』（ディスカヴァー・トゥエンティワン刊）が3月16日に発売されました。

清水さんがこれまで中学生に教えてきた「勉強のやり方」を集大成的にまとめたものです。

勉強の4つのステップ（予習、授業、復習、テスト）ごとに、5教科（英語、数学、国語、理科、社会）の正しい勉強法を手取り足取り解説しています。

授業についていきたい、平均点をとれるようになりたいという生徒、クラスで上位を目指したい、進学校へ行きたいという生徒、さらに余力がある生徒まで、段階をふまえた具体的な学習方法や内容が満載です。

